

# 第3期飯島町スポーツ推進計画

(令和5年度～令和9年度)

スポーツで つなげ！ 人の輪 (和) 地域の輪 (和)

～未来を拓くスポーツの力・価値～



飯島町教育委員会

令和5年3月

## 第3期 飯島町スポーツ推進計画 目次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 第1章 計画策定の考え方                     | 1  |
| 第2章 計画の基本理念                      | 5  |
| 第3章 計画の基本目標と施策の展開                | 7  |
| <u>基本目標1 生涯を通じたスポーツ活動支援体制の充実</u> |    |
| （1）幼児期の支援体制                      | 7  |
| （2）小学生への支援体制                     | 8  |
| （3）中学生への支援体制                     | 9  |
| （4）若者への支援体制                      | 10 |
| （5）成人への支援体制                      | 11 |
| （6）高齢者への支援体制                     | 13 |
| （7）運動やスポーツをする環境の安全の確保            | 14 |
| <u>基本目標2 スポーツ実施率の向上</u>          |    |
| （1）スポーツ実施率の向上                    | 15 |
| （2）スポーツ種目と町スポーツ大会                | 16 |
| （3）体育館開放日                        | 19 |
| <u>基本目標3 住民が主体的に参画する環境の整</u>     |    |
| （1）総合型スポーツクラブ                    | 20 |
| （2）愛好者団体                         | 21 |
| （3）公民館                           | 22 |
| （4）一般町民・団体                       |    |
| （5）施設整備                          | 23 |
| <u>基本目標4 競技力の向上</u>              |    |
| （1）選手強化・指導者育成                    | 24 |
| （2）少年スポーツ                        | 25 |
| <u>基本目標5 地域の元気力アップ</u>           |    |
| （1）地域の一体感や活力の醸成                  | 27 |
| （2）地域間交流の促進                      | 28 |
| （3）健康長寿社会の実現                     | 29 |
| 第4章 施策の推進体制                      | 30 |
| 資料 計画策定経過                        | 33 |
| 計画策定委員会                          | 34 |

# 第1章 計画策定の考え方

## 1 国の計画

第2期スポーツ基本計画で「中長期的なスポーツ政策」として次の4つの目標が掲げられました。

- ① スポーツで「人生」が変わる
- ② スポーツで「社会」を変える
- ③ スポーツで「世界」とつながる
- ④ スポーツで「未来」を創る

第3期計画では、上記の中長期的な基本方針を踏襲しつつ、以下の3つの「新たな視点」とそれを支える具体的な施策が示されました。

### ① 社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを「つくる／はぐくむ」という視点

- i 多様な主体が参画できるスポーツの機会創出
- ii 自主性・自律性を養う指導ができるスポーツ指導者の育成
- iii スポーツ界におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入

### ② 様々な立場・背景・特性を有した人・組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点

- i スポーツを通じた共生社会の実現
- ii スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力を通じた我が国のスポーツ体制の強化
- iii スポーツを通じた国際交流・協力

### ③ 性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、全ての人々がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点

- i 地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ii アスリート育成パスウェイの構築及びスポーツ医・科学、情報等による支援の充実
- iii 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがないような継続的なアクセスの確保

上記施策を含め、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策として分析された「今後の施策目標」「具体的施策」は以下のとおりとされました。

#### スポーツ振興を図るための施策

- (1) 多様な主体におけるスポーツの機会創出
- (2) スポーツ界におけるDXの推進
- (3) 国際競技力の向上
- (4) スポーツの国際交流・協力を提示する。

#### スポーツによる社会活性化・社会課題の解決を図るための施策

- (5) スポーツによる健康増進
- (6) スポーツの成長産業化
- (7) スポーツによる地方創生、まちづくり
- (8) スポーツを通じた共生社会の実現

上記の施策を実現するための必要となる基盤や体制を確保するための施策

- (9) 担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
- (10) スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
- (11) スポーツを実施する者の安全・安心の確保
- (12) スポーツ・インテグリティの確保

## 2 県の計画

### **基本理念 スポーツの力で切り拓く長野県の未来**

#### 基本目標 1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- 1-1 幼児期からの運動の習慣化
- 1-2 学校教育・運動部活動等の充実
- 1-3 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実

#### 基本目標 2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

- 2-1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
- 2-2 地域のスポーツ環境の整備

#### 基本目標 3 全国や世界で活躍する選手の育成

- 3-1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上
- 3-2 スポーツ界の好循環の創出

#### 基本目標 4 スポーツの持つ力の多面的活用

- 4-1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
- 4-2 スポーツを通じた人々の交流促進
- 4-3 プロスポーツとの連携・協働の推進
- 4-4 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現

第2次スポーツ計画（平成30年度から令和4年度）が10年後の目指す姿を見据えた前半5年間の計画であるため、第3次計画（令和5年度から令和9年度）は「後半の5年間の計画」として位置づけ、策定されます。4つの基本目標や「5年後の目指す姿」を実現するために、「スポーツの力・価値」について改めて確認したうえで、「スポーツの力・価値」を活用し、具体的な施策の検討が進められます。

### 第3次長野県スポーツ推進計画で捉える「スポーツの力・価値」

| 第3次長野県スポーツ推進計画で捉える「スポーツの力・価値」 |              |              |                       |           |      |
|-------------------------------|--------------|--------------|-----------------------|-----------|------|
| ①スポーツそのものが有する力・価値             |              |              | ②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値 |           |      |
| 体力向上                          | 心身の健全な発達     | 他者を尊重し協働する精神 | 地域活性化                 | 地域社会のつながり | 共生社会 |
| 楽しさ・喜び・自発性                    | 生きる力（人間力）の向上 | 自己肯定感・達成感    | 健康長寿社会                | 経済発展      | 交流促進 |
| コミュニケーション                     | Well-being   | 健康増進         | 魅力発信                  | 好循環       | レガシー |
| 感動・一体感                        | 夢・憧れ         |              | 異分野との連携               |           |      |

### 3 計画策定の趣旨

第2期計画が令和4年度で終了するため、「第3期計画」を策定します。国の「第3期スポーツ基本計画」、県の「第3次スポーツ推進計画」を参酌して策定を進めます。

スポーツは、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で重要な役割を果たすものとなっています。誰もがスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ」を実現するために、平成30年度から令和4年度を対象とした第2期計画を見直し、令和10年度に開催予定の「第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会（以下「やまなみ国スポ」という）」も見据えながら、次期5年間のスポーツ振興の指針としてこの推進計画を策定します。

### 4 策定をとりまく状況

国は、平成29年3月に第2期スポーツ基本計画を策定し、国のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ってきました。この間の大きな国際競技大会として、平成30年の平昌冬季オリンピック・パラリンピックをはじめ、令和元年にはアジア初となるラグビーワールドカップが開催され日本中が感動に包まれました。

しかし、令和2年初めから新型コロナウイルス感染症が広まり、世界的規模でパンデミックとなりました。人々の生活は一変し、スポーツ活動どころか当たり前の生活を送ることすら困難な状況となりました。多くのスポーツ活動が中止や延期、開催規模の縮小、無観客での実施等の対策を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が失われていきました。

その中で、一年延期となりましたが令和3年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、コロナ禍においてスポーツの力・価値、そしてその大きな可能性を、あらためて世界中の多くの人々に示してくれました。

感染拡大から2年が経過し、オリンピック・パラリンピックも開催され世の中もウィズコロナ時代となり、感染症等の影響がある中で、それぞれに予防対策を講じながら可能な範囲で少しずつ実施しているところです。

町のスポーツ推進を取り巻く状況も刻々と変化し、少子高齢化による団体数の減少、町スポーツ連絡協議会の専門部の休部、生徒数の減少にともなう学校運動部活動縮小の検討等、スポーツに関わる人そのものが減ってきています。

そういった問題や課題の解決の糸口のひとつとして、令和3年度、4年度と国の指定を受け、部活動の地域移行の研究推進に取り組んできました。

また、令和10年度には国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の長野県開催が予定され、飯島町はホッケー競技の会場となります。大会の成功に向けて会場含めその周辺の改修を進めながら、飯島町出身の国民スポーツ大会参加選手を育成しつつ、それぞれの競技の普及も図っていく必要があります。

スポーツに関わる人が減っていく中で、選手を発掘し育てていかなければいけないという厳しい状況にあります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症をはじめ、少子高齢化、人口減少等、様々な社会状況の変化に拍車がかかる中で、いつの時代も、スポーツは心身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、幸福で豊かな生活や健康長寿社会の実現に欠かせない存在であり、常にその力と価値を発揮してきました。スポーツ活動の推進は、人と人、地域と地域の交流を促

し、一体感や活力の醸成に寄与することから、まちづくりを進める上できわめて有効といえます。町民が生涯にわたってスポーツに親しみ、主体的に参画するための環境整備をさらに進める必要があります。そのために、飯島町のスポーツをめぐる現状・課題を整理し、今後の施策を検討していかなければなりません。

## 5 計画の位置づけ

国の「スポーツ基本計画」や「長野県スポーツ推進計画」を参酌した独自の計画です。「飯島町第6次総合計画」、「飯島町教育大綱」及び「飯島町生涯学習推進計画パート6」に対応する体育・スポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ推進のために必要な具体的施策を推進するための計画とします。

## 6 計画の期間

令和5年度からの5年間とします。なお、期間内であっても、新たに盛り込むべき事項が生じた場合などには必要に応じて計画を見直します。

## 7 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では「スポーツ」を広義にとらえ、競技スポーツだけでなく、散歩や体操、レクリエーション、幼児の遊びなど、身体を使った運動の全てを含むものとします。

## 第2章 計画の基本理念

世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめ、加速する少子高齢化、情報化社会の進展、景気の低迷といった社会の変化や、個人の価値観・趣味の多様化など、ライフスタイルは第2期飯島町スポーツ推進計画策定時から劇的に変化しました。その中でも新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、外出制限や体育施設の使用中止によるスポーツ活動の停滞、接触を控えるため団体スポーツから個人スポーツへのシフト、活動時間縮小のため団体スポーツ競技力の低下等、飯島町のスポーツ活動にも顕著に現れています。

一方で、新型コロナウイルスの影響によりスポーツ活動の多様化が進み、ニューノーマルとしての活動方法が工夫されながら生み出されてきています。その結果として、人間関係の希薄化が進む現代、新しいかたちでの人と人との出会い、関係づくりが創出され、スポーツを個人で取り組んでいる者が集まりともに楽しむ活動になる等、その状況が少しずつ変化し、あらためてスポーツの力・価値や必要性が見直され、重視されてきています。

そこで、本計画では第2期計画から引き続き、次の4つの基本理念を掲げます。

- ① **地域の次代を担っていく子どもたちが、スポーツを通じて規範意識を身につけ、他者との協働を学び、心身ともに健全に成長する町をつくる**
- ② **町民一人一人がその自発性の下に、年齢や性別、障がいの有無を問わず、それぞれの関心や適性に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ町をつくる**
- ③ **スポーツを通じて健康を保持増進し、活力に満ちた長寿の町をつくる**
- ④ **スポーツを通じて人と人が深い絆でつながり、主体的な協働により地域を発展させる町をつくる**

スポーツ活動は人の暮らしに潤いをもたらす、体力だけでなく人間性も豊かに向上させる可能性があります。そうした個人がチームの仲間や家族、地域でつながり合い、自らの足で立ちながら他者と支え合う関係が広がります。人と人の「和」が「輪」となり、地域の「和」を生み、地域の「輪」の広がりが元気なまちづくりにつながります。

### **スポーツで つなげ！ 人の輪（和） 地域の輪（和）**

#### **～未来を拓くスポーツの力・価値～**

心が通い合い、明るい笑顔があふれ、未来へ向かう活力ある飯島町の創造に向けて、この言葉を合言葉とし、本計画を進めます。

## 第3期飯島町スポーツ推進計画の体系

【飯島町第6次総合計画 施策方針】  
**スポーツライフ「いつでも・どこでも・いつまでも」**



【第3期飯島町スポーツ推進計画】  
**スポーツでつなげ！人の輪（和） 地域の輪（和）**  
 ～未来を拓くスポーツの力・価値～

### 〈基本理念〉

- 地域の次代を担っていく子どもたちが、スポーツを通じて規範意識を身につけ、他者との協働を学び、心身ともに健全に成長する町をつくる
- 町民一人一人がその自発性の下に、年齢や性別、障がいの有無を問わず、それぞれの関心や適性に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ町をつくる
- スポーツを通じて健康を保持増進し、活力に満ちた長寿の町をつくる
- スポーツを通じて人と人が深い絆でつながり、主体的な協働により地域を発展させる町をつくる



### 〔基本目標と施策の展開〕

- 1 生涯を通じたスポーツ活動支援体制の充実**
  - 保育園・小中学校の取り組みを拡充
  - ニュースポーツの普及促進
  - 施設や備品の適切な安全管理 等
- 2 スポーツ実施率の向上**
  - 参加しやすいスポーツイベントの開催
  - 「体育館開放日」利用促進
  - 町スポーツ大会の充実 等
- 3 住民が主体的に参画する環境の整備**
  - 総合型スポーツクラブの充実・発展
  - スポーツ団体の活動支援・交流促進
  - 施設や備品の情報提供 等
- 4 競技力の向上**
  - トップレベルの選手の発掘・育成
  - スポーツ連絡協議会指導員の体制拡充
  - 少年スポーツ団体への支援 等
- 5 地域の元気力アップ**
  - スポーツの話題を発信
  - 「する」「観る」「支える」スポーツの情報提供
  - 広域大会・スポーツ合宿への協力 等



### 〔目指す5年後の姿〕

- ◎ 町民だれもが、年齢、体力、目的に応じて安全にスポーツに親しむための支援体制が充実している
- ◎ 生涯スポーツ社会の意識が高まっている
- ◎ 成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%、年1回以上の実施率が100%に近づいている
- ◎ 町スポーツ大会の参加者が増加している
- ◎ 総合型スポーツクラブが定着し、各種団体と連携して町全体のスポーツ推進を担っている
- ◎ 町民によるスポーツ施設の気軽な利用が広がっている
- ◎ 全国や県内で活躍したり注目されたりする飯島町の選手やチームが増加している
- ◎ 町内だけでなく町外団体とも連携して持続可能な活動ができている
- ◎ スポーツイベントに大勢の町民が関わっている
- ◎ スポーツを通じた町外との交流や健康増進の取り組みが進み、「元気な飯島町」が実感できる

## 第3章 計画の基本目標と施策の展開

### 基本目標1 生涯を通じたスポーツ活動支援体制の充実

#### ◎目指す5年後の姿

町民だれもが、年齢、体力、目的に応じて安全にスポーツに親しむための支援体制が充実し、生涯スポーツ社会の意識が高まっていることを目標とします。

#### (1) 幼児期の支援体制

##### 【現状・課題】

- ・ 保育園では、普段から体を動かすことの楽しさを感じられる取り組みを続けています。また、年に数回講師を招いて意欲的に運動遊び等の経験できる機会を設けており、園児の運動能力向上に寄与しています。
- ・ 未就園児親子が集まる飯島町地域子育て支援センター（以下「いっ子センター」という）では、リトミックや伝承遊びなど多くの体を動かすプログラムが計画され、新型コロナウイルス感染症の影響がでる以前は、年間利用者が一万人を超え年々増加していました。令和4年度になり、参加者も徐々に回復しており、少子化の中でも利用需要が高まっています。
- ・ 保育園では外遊びが好きな子が多く、屋外で多くの友達と関わりながら遊ぶ姿が見られます。
- ・ 日常生活の中で、親子で体を動かすことが少なくなっています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、不特定多数が集まる場所へ行くことや他者との関わりが困難となり、以前よりも運動する機会が減っています。

##### 【施策の展開】

#### □ 各機関の取り組み拡充と連携・支援

- ・ 保育園、いっ子センター、総合型スポーツクラブが、それぞれの取り組みを共有し、相互に連携しながら、運動好きの子どもを育てられるよう、事業の実施や情報交換、連携、支援に努めます。
- ・ 幼児期から運動やスポーツに親しむ機会を提供し、運動が苦手な子どもを減らす取り組みに努めます。

#### □ 幼児等親子向け教室の開催

- ・ 幼児や小学校低学年の親子向けに運動遊びや自然の中で遊ぶ体験イベント等の開催を計画し、体を動かすことを経験する機会の増加に努めます。

#### □ 保育士等の研修参加促進

- ・ 保育士や指導者に、長野県などが主催する子どもの運動能力向上や伝承遊びなどの研修会等の情報を提供し、参加を促します。

## (2) 小学生への支援体制

### 【現状・課題】

- ・ライフスタイルの変化や情報端末の普及により、様々なスポーツ活動を体験できる場や選択肢が広がり、興味・関心を持ったスポーツに気軽に取り組める環境が少しずつ増えてきています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的な学校への登校停止や学級閉鎖等、子どもたちが思うように活動できないことが増えています。
- ・子どもたちに体力向上の意識を持たせるとともに運動の楽しさを経験させ、運動することへの苦手意識をなくす視点が、指導する立場の者に求められています。
- ・インターネット環境の整備やスマートフォンの普及等が急速に進み、運動やスポーツに親しむ子とそうでない子の二極化が、以前にも増して顕著になっています。
- ・モバイル端末等を使った遊びを室内で行う子どもが増えていますが、外遊びが好きな子どもも多くいます。
- ・小学校では担任がすべての教科を指導することが多いため、専門性のある指導が十分にできないことがあります。
- ・以前にも増して所得格差が広がり、金銭面で負担が大きいことや、保護者の仕事の都合で送迎が難しい家庭もあり、子どもが望むスポーツに親しむ機会が得にくいことがあります。
- ・少しずつ増えてきていますが、都市部とは違い、子どもたちが様々なスポーツに興味・関心を持って、容易には取り組めない場合があります。
- ・地域の中に体験できる種目、活動に参加できる種目が多くなく、自分が希望しないスポーツをやらなければいけない場合があります。

### 【施策の展開】

#### □ 教員の指導力強化

- ・体育の授業や体を動かすことを目的とした課外活動が充実するよう、長野県体育センター等の研修会の情報を提供し、教員の参加を促します。
- ・長野県体育センターの専門員派遣事業を活用し、専門性のある指導を提供できるよう努めます。
- ・教員が常により良い指導方法を追求し実践できるようサポートすることで、運動に苦手意識を持つ子どもの減少につなげます。
- ・障がいの有無を含め、一人一人の児童の状況・適性等に応じた指導を行うよう努めます。

#### □ 少年スポーツ団体や総合型スポーツクラブ等の紹介と加入

- ・町内の少年スポーツ団体や総合型スポーツクラブでは、身近で安価に運動やスポーツに取り組むことができます。これらの団体への加入促進のため、町広報紙や町ホームページへの情報掲載に加え、SNS等での情報提供など、周知手段の拡充や魅力ある情報発信に努めます。
- ・総合型スポーツクラブは、プロサッカー選手による小中学生対象のサッカー教室や保育園での運動遊びプログラム等を開催しており、広報等の支援を継続します。

また、様々な競技の体験教室等を企画し、より多くの経験ができる環境を整えていきます。

□ 「子ども広場」での運動支援

- ・放課後の子どもたちの居場所づくりのために各地区で実施している「子ども広場」などで、楽しくスポーツや運動遊びに取り組めるよう支援します。

□ 余暇における運動やスポーツ活動の環境づくり

- ・町内体育施設の無料開放日等により、運動やスポーツに親しむ場所と機会を提供し、スポーツ推進委員と連携しながら、運動が苦手な子どもを減らす取り組みに努めます。
- ・運動に苦手意識を持っている子どもでも、気軽に楽しみながら体を動かせるニュースポーツ等を体験できる機会を提供していきます。

□ 指導者研修会の開催

- ・少年スポーツ団体の指導者やこれから指導者を目指す者が受講できる研修会を計画し、子どもたちへのスポーツや運動指導の質の向上に努めます。

(3) 中学生への支援体制

【現状・課題】

- ・東京オリンピックから新たに正式種目となったスケートボードやスポーツクライミング、次のオリンピックから採用されるダンス等の新しいスポーツへの関心が高まっています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的な学校への登校停止や学級閉鎖等、子どもたちが思うように活動できないことが増えています。
- ・インターネット環境の整備やスマートフォンの急速な普及により、屋外でもモバイル端末等でゲームをする子どもが増えており、スポーツに親しむ子とそうでない子の二極化が進んでいます。
- ・学校部活動では、運動部ではなく文化部を選ぶ子どもが増えています。
- ・令和7年度を目途に学校部活動の地域移行が全国的に取り組まれ、地域部活動（以下「飯島プラス1クラブ」という）の導入により、子どもたちが希望する活動の持続可能な体制づくりを進めています。  
飯島町だけではなく、近隣市町村と連携し広域で活動していくことも検討する必要に迫られています。
- ・武道必修化に伴い、安全で充実した指導が求められています。
- ・運動部の種目が限られており、本当にやりたい種目ができないことがあります。また、部によって人数の偏りがあります。
- ・生徒数の減少による部活動数削減の検討、十分な人数の顧問の確保が困難になる等の問題があります。

【施策の展開】

□ 体育授業の充実

- ・既知の知識にとどまらず、新しいスポーツ理論やスポーツ医学、指導法を体育の授業に取り入れることができるよう、教員の研修等への参加を促進します。
- ・武道の指導に当たっては、長野県体育センターでの研修を積極的に受講することや飯島町スポーツ連絡協議会に登録されている指導者を派遣する等、安全で効果的な指導を目指します。
- ・障がいの有無を含め、一人一人の生徒の状況・適性等を考慮した指導を行います。

#### □ 学校部活動と飯島プラス1クラブ、社会体育活動の充実と整理

- ・学校部活動と飯島プラス1クラブの連携を進め、休日の指導を地域指導者に任せ、教員が不在な場合でも持続可能な活動を行うことができ、子どもたちの活動を保証できる体制づくりを進めます。
- ・少年団体の社会体育活動については、体育施設の使用料と照明料を免除する等、活動しやすい環境づくりを継続します。令和7年度を目途に、活動の統合・整理を進め、地域と連携した体制づくりを目指します。
- ・子どもたちが主役という視点から、学校部活動の顧問、飯島プラス1クラブや社会体育活動の指導者、保護者のそれぞれが共通の目的を共有し、将来を見据えた活動の方法を検討していきます。
- ・学校部活動にない競技種目については、地域のスポーツ団体等が受け皿になって取り組めるよう連携を図ります。また、飯島プラス1クラブとの連携も模索していきます。

#### □ 余暇におけるスポーツ活動の環境づくり

- ・学校部活動や社会体育活動以外にも、中学生が余暇に仲間とともに気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。
- ・運動やスポーツに親しむ場所や機会を提供し、運動が苦手な子どもを減らす取り組みに努めます。

### (4) 若者への支援体制

#### 【現状・課題】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、運動する機会に制限が増え、学校の運動部や民間のスポーツクラブ等に所属していない高校生や大学生は、以前にも増して授業以外で運動する機会が減っています。
- ・eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）の人气が高まっており、コンピューターゲーム等を競技として楽しむ若者が増え、体を動かす運動やスポーツの機会が減ってきています。
- ・高校や大学等で運動部や運動サークル等に所属している割合は中学生より低い傾向にあります。
- ・高校への通学に時間がかかることや、大学進学による遠方への転居を理由に、町内で社会体育団体に所属できる高校生や大学生が少なく、時間や場所に縛られない運動やスポーツの親しみ方を検討する必要があります。

- ・自ら「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」を含めた生涯スポーツの意識付けを促す年代と思われます。

【施策の展開】

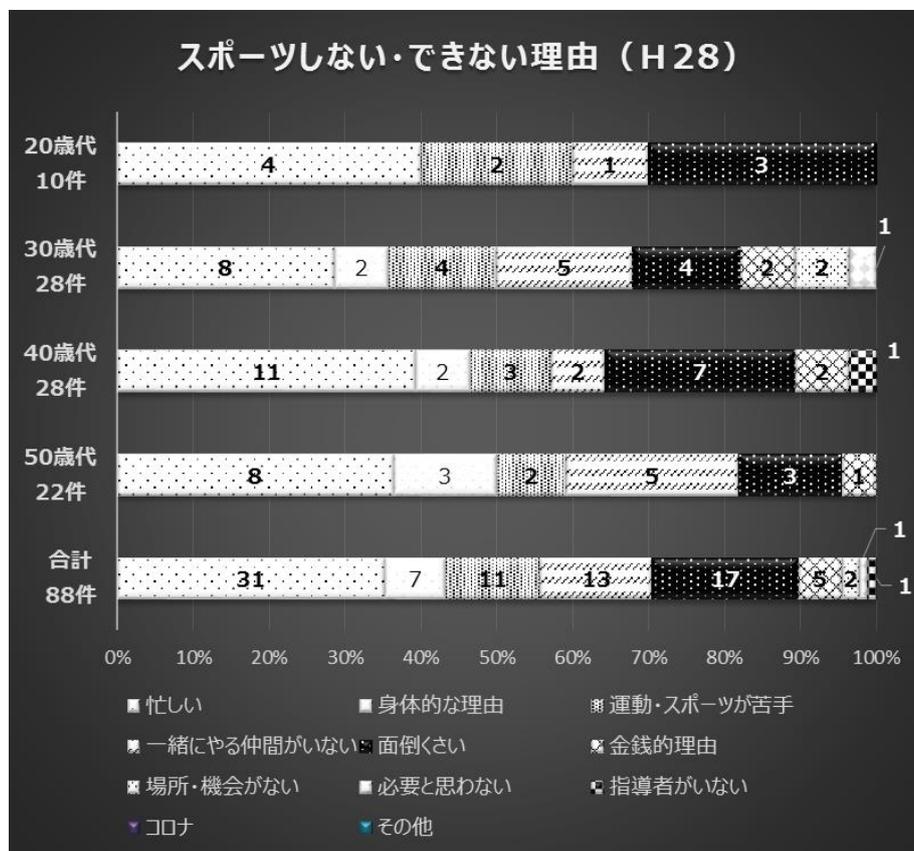
□ 気軽なスポーツ活動の環境づくり

- ・若者が、余暇に仲間とともに気軽に運動やスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。
- ・町の社会体育団体について、町広報誌やケーブルテレビ、SNS等の情報発信ツールを活用して情報発信します。
- ・町スポーツ連絡協議会が主催する各種競技大会や生涯学習センター主催のニュースポーツ事業等の情報発信を積極的に行い、気軽に参加できる機会を提供します。
- ・「する」「観る」「支える」スポーツの魅力を発信していきます。

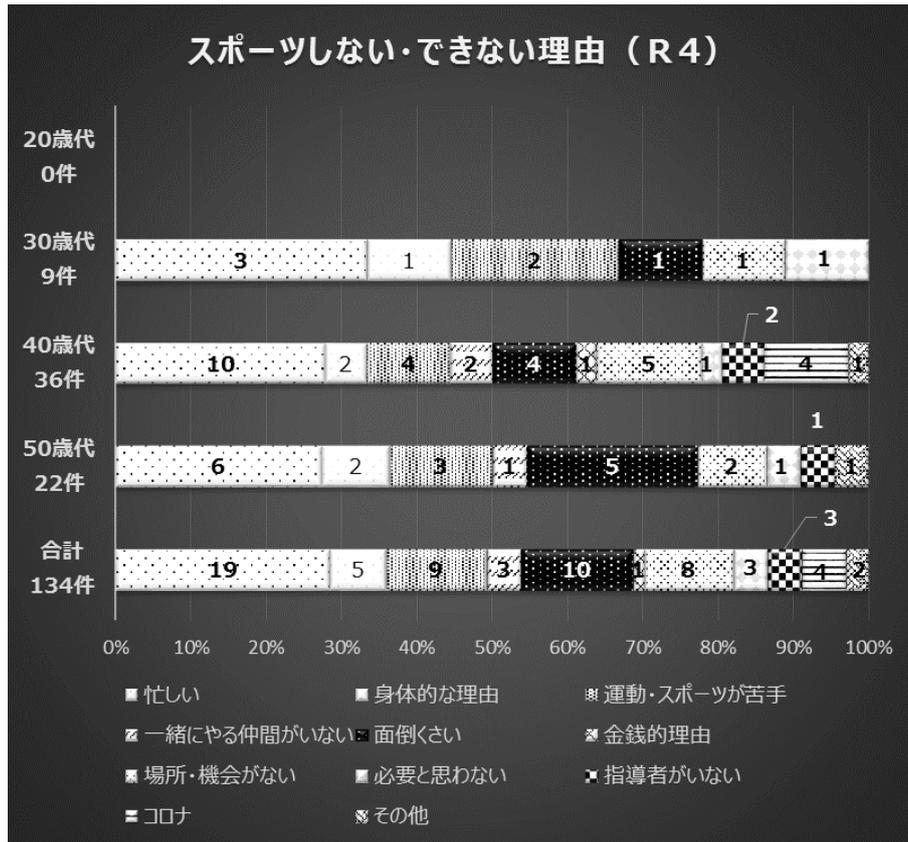
(5) 成人への支援体制

【現状・課題】

・平成 28 年度に町民を対象に実施した調査で、20～50 歳代は、「スポーツをほとんどしない、できない理由」として「多忙」を挙げる率が約 35%を占めていましたが、令和 4 年度では約 14%に減っています。数値は下がっているものの、平成 22 年度の調査結果から継続して「多忙」を理由とする割合が高い水準です。スポーツの価値や必要性を理解していても、働き盛りで行動に移せない状況にあると思われます。忙しい中でも運動できる環境づくりを進めていく必要があります。



※平成 28 年「飯島町生涯スポーツ調査」による（対象 1,000 人無作為抽出 回答 369 件）



※令和4年「飯島町生涯スポーツ調査」による（対象1,000人無作為抽出 回答285件）

- ・令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響で、一時的に運動やスポーツが思うようにできない時間がありましたが、令和4年に行ったアンケートでは、新型コロナウイルス感染症を理由にする回答は多くはありませんでした。感染拡大から2年が経過し、ウィズコロナで工夫をしながら運動やスポーツができていることが推測できます。
- ・「運動・スポーツをほとんどしない」と回答した人は全体の約12%（33人/285人）でした。その中で運動やスポーツをすることが好きかという設問には「いいえ」の回答が55%と若干高い回答となりました。苦手意識や動くことが好きではないということが、運動やスポーツをしない大きな理由のひとつになっています。

#### 【施策の展開】

- 参加しやすいスポーツイベントの企画・開催
  - ・誰もが気軽に楽しむことができ、参加しやすいスポーツイベントや講座を企画・開催します。
- 「する」「観る」「支える」スポーツの魅力発信
  - ・町広報誌やケーブルテレビを活用し、「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の魅力を発信し、スポーツの楽しさはもちろん、健康づくりに役立つことや、やりがい・生きがいを感じられること、地域に元気をもたらす効果があることの認識を高めます。

□ 気軽なスポーツ活動の環境づくり

- ・ 家族や友人とともに、余暇に気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。
- ・ 町社会体育団体について、町広報誌やケーブルテレビ、SNS等を活用して情報提供し、希望する活動に参加できるように支援します。

(6) 高齢者への支援体制

【現状・課題】

- ・ 令和4年度の調査では、60歳代の「スポーツをしない、できない理由」はほかの年代同様「多忙」を挙げる率が32%（6人/19人）となっており、高齢になっても現役で仕事をもっていたり、また自治会の役職等で思ったように時間がとれなかったりする現状が推測されます。60歳代の「スポーツをしない、できない理由」で「身体的な理由」が16%となっており、割合は高いものの、以前の調査に比べると低くなっています。70歳以上になると「身体的な理由」を挙げる率が35%を占め、年齢や健康状態に応じた運動に取り組むきっかけづくりが求められています。
- ・ 誰でもいつでも取り組める運動についての情報提供や、運動に取り組むきっかけづくりが求められています。
- ・ 近年、区や自治会の高齢者クラブなどで、生涯学習センターの「生き粋出前講座」を利用した囲碁ボール教室やボッチャ体験等、ニュースポーツの講座が行われ定着してきています。また、いわゆるウォーキングに加えて、道具を利用したポールウォーキングやノルディックウォークの愛好者も増えてきており関心も高まっています。

【施策の展開】

□ 健康づくりに役立つ運動の情報提供

- ・ 広報誌、ケーブルテレビやSNS等を活用し、適度な運動が健康づくりに役立つことを情報提供します。

□ 高齢者も参加できるスポーツイベントの開催

- ・ 町内特設コースをウォーキングする「いいちゃんウォーク」のほか、高齢者も気軽に参加できるスポーツイベントや講座を開催し、参加を促します。

□ 気軽なスポーツ活動の環境づくり

- ・ 家族や友人と一緒に参加することはもちろん、一人でも気軽に参加し、参加者同士でスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。

□ ニュースポーツの普及促進

- ・ 囲碁ボールやボッチャをはじめとするニュースポーツや、生涯学習講座で開講しているポールウォーキング等の普及促進に取り組みます。

□ 信州ACE（エース）プロジェクトとの連携

- ・ A c t i o n（体を動かす）、C h e c k（健診を受ける）、E a t（健康に食べる）の中の、A c t i o nに注目し、町の健康ポイントの取り組みと合わせて、健康長寿のための体づくりを推進します。

## (7) 運動やスポーツをする環境の安全確保

### 【現状・課題】

- ・近年町内で運動やスポーツによる大きな事故や怪我はありませんが、比較的軽度の怪我は日常的に起きていると思われます。
- ・体育施設の設備や器具、用具等を日常的に点検・確認し、安全に使用できる状態を保つことが必要です。
- ・万が一に備え、自動体外式除細動機（AED）を全ての体育館に配置しています。運動場では、上記体育館や周辺のAEDを使用することになりますが、田切野球場と本郷運動場の最寄りには備えられていません。
- ・スポーツ振興くじ（toto）の助成を受け、令和3年度に飯島体育館アリーナ床の改修工事、令和4年度に田切体育館屋根及び外壁の改修工事を行いました。今後も計画的な施設整備を進め安全確保に努めます。
- ・新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止対策のため、全ての体育施設での手洗いやトイレ等の自動水洗化を進めています。  
また、屋内体育施設においては、手指消毒用のアルコールスプレーボトルを設置してあります。また、各利用者、利用団体へも感染拡大防止対策の徹底をお願いしています。

### 【施策の展開】

#### □ 事故・怪我予防の講習会の開催

- ・町スポ連の研修会として、スポーツ指導者や一般町民に呼びかけて、事故や怪我の予防について学ぶ機会を単年度で終わらずく、毎年継続して設けます。
- ・各種スポーツ大会などに合わせ、有資格者の協力を得て怪我の予防やテーピング方法等の講習を受ける機会を設けます。

#### □ 施設や備品の適切な管理

- ・施設や備品について、破損や老朽化の度合いを日常的に点検するとともに、使用団体から情報提供を受け、適切な管理・更新に努めることで環境を整備し安全性の向上に努めます。

#### □ AED配置場所の周知と救急救命講習

- ・AEDの配置場所を周知します。
- ・救急救命講習の機会を設け、スポーツに関わる町民や社会体育団体等に所属するメンバー等が受講できるよう計画します。

#### □ 運動やスポーツの際の傷害保険等の周知

- ・運動やスポーツ時の事故や怪我に備え、町スポ連に所属する団体や指導者へ、傷害保険や損害賠償保険等の情報提供をし、加入を勧めます。

## 基本目標 2 スポーツ実施率の向上

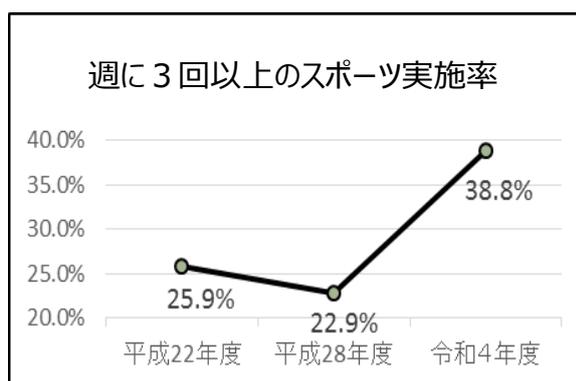
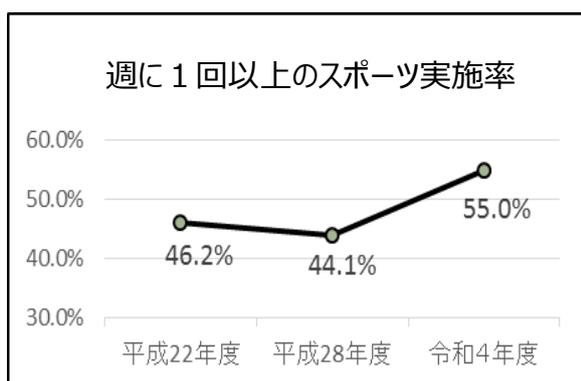
### ◎目指す5年後の姿

成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%、年1回以上のスポーツ実施率が100%に近づくことを目指し、町スポーツ大会の参加者が増加していることを目標とします。

#### (1) スポーツ実施率の向上

##### 【現状・課題】

- ・町民を対象にした調査（令和4年度）によると、週1回以上スポーツに親しむ成人の割合は55.9%で、前回の調査から大きく伸びています。週3回以上の町民についても、38.8%で前回調査を大きく上回っています。理由として、新型コロナウイルス感染症の影響により、集まってスポーツをするという形から、個人で取り組むことが増えてきたことが考えられます。
- ・令和4年3月に示された国のスポーツ基本計画では「成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%になること、年1回以上のスポーツ実施率が100%に近づくことを目標とする」とあり、今後5年間でこの目標値に届くように計画を進めます。

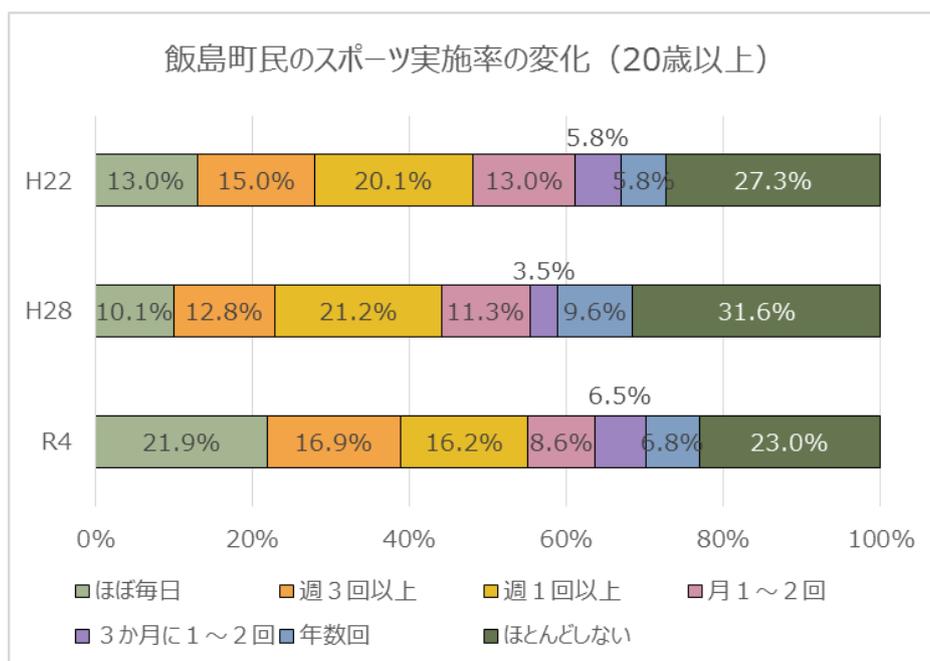


※令和4年「飯島町生涯スポーツ調査」による（対象1,000人無作為抽出 回答285件）

##### 飯島町の実施率

- 「成人の週1回以上のスポーツ実施率」 55.0%（目標値70%）
- 「成人の年1回以上のスポーツ実施率」 75.1%（目標値100%）

- ・スポーツをほとんどしないと答えた成人の割合は前回調査の31.6%から23.0%と下がっており、新型コロナウイルス感染症の影響により、集まってする運動やスポーツ活動から個人でする運動やスポーツ活動を行う選択肢が増えたことが推測される。



※令和4年「飯島町生涯スポーツ調査」による（対象1,000人無作為抽出 回答285件）

#### 【施策の展開】

- 参加しやすいスポーツイベント・講座の開催
  - ・だれもが気軽に楽しめ、参加しやすいスポーツイベントや講座を開催します。
  - ・イベントを通じ、自主的で継続的なスポーツ活動につなげる取り組みを進めます。
- ニュースポーツの普及
  - ・飯島町スポーツ推進委員会を中心に、誰もが気軽に取り組むことができ、体を動かす楽しさを感じられるきっかけとなるようなニュースポーツの普及を進めます。
- 「体育館開放日」の利用促進
  - ・体育館開放日について、町広報誌やケーブルテレビ、SNS等を活用し、利用を促します。
- スポーツ調査の実施
  - ・スポーツ推進計画策定にあたり、町内在住の1,000人（人口の約10%）を対象にしたスポーツ調査を実施し、調査結果を分析して施策に反映させます。
  - ・アンケートの精度を上げるため、長野県電子申請サービスやQRコードの活用等、回収率を高める工夫をします。

#### (2) スポーツ種目と町スポーツ大会

##### 【現状・課題】

- ・平成30年度から令和4年度まで、飯島町スポーツ大会（飯島町スポーツ連絡協議会主催）として17ページの表のとおり各種大会が開催されました。
- ・新型コロナウイルスの影響が大きく、感染者数の増加により、大会によっては開催が難しい状況が出ています。
- ・少子化による競技人口の減少や競技者の高齢化、構成員の高齢化やなり手不足による専門部の休部等、開催できない大会が出てきています。

飯島町スポーツ連絡協議会が主催する各種大会実施表

| 種目        | 大会名               | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|-----------|-------------------|-----|----|----|----|----|
| 野球        | 少年野球大会            | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  |
| ソフトボール    | ソフトボール大会          | 中止  | ○  | ○  | ｺｯ | 中止 |
| バレーボール    | 一般バレーボール大会        | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ○  |
|           | 少年少女バレーボール大会      | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ○  |
|           | 小学生バレーボール大会       | ○   | ○  | ○  | ｺｯ | ○  |
| ソフトバレーボール | ソフトバレーボール大会       | ○   | ○  | ｺｯ | ｺｯ | ○  |
| バスケットボール  | バスケットボール大会        | ○   | ○  | 休部 | 休部 | ○  |
|           | 少年バスケットボール大会      | ○   | ○  | 休部 | 休部 | ○  |
| サッカー      | 親子サッカーフェスティバル     | ○   | ○  | ○  | ○  | 中止 |
|           | ミニサッカー大会          | ○   | 中止 | ｺｯ | ｺｯ | ○  |
| ソフトテニス    | ソフトテニス大会          | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  |
| バドミントン    | バドミントン大会          | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ｺｯ |
|           | 混合ダブルスバドミントン大会    | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | 中止 |
|           | ジュニアバドミントン大会      | ○   | ○  | ○  | ｺｯ | ○  |
| 卓球        | 卓球大会              | ○   | ｺｯ | 休部 | 休部 | 休部 |
| マレットゴルフ   | 町民シルバーマレットゴルフ大会   | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ○  |
|           | ファミリーペアマレットゴルフ大会  | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ○  |
|           | さわやかマレットゴルフ大会     | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  |
| ゲートボール    | ゲートボール大会          | ○   | ○  | ○  | ○  | 休部 |
| 柔道        | 柔道大会              | ○   | ○  | ｺｯ | ｺｯ | ○  |
| 空手        | 空手大会              | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | 中止 |
| 剣道        | 剣道大会              | ○   | ○  | ○  | ｺｯ | ○  |
| 弓道        | 弓道大会              | ○   | ○  | ○  | ○  | ○  |
| ゴルフ       | 町民ゴルフ大会           | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ○  |
| 陸上競技      | 長野県市町村対抗駅伝競走大会    | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ｺｯ |
|           | 長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会 | ○   | ○  | ｺｯ | ○  | ｺｯ |
| 実施大会数     |                   | 25  | 24 | 10 | 16 | 17 |
| 競技種目数     |                   | 16  | 16 | 10 | 11 | 12 |

- ・町大会が開催されている競技種目以外にも、フットサル、太極拳、銃剣道、健康体操、社交ダンス、キッズダンスなどの愛好者団体が町スポ連に加入して活動しています。
- ・個人で取り組むスポーツで愛好者が多い種目には、ゴルフ、スキー・スノーボード、水泳、登山等があります。
- ・令和4年度の調査では、「今後取り組んでみたい運動」の問いに、40歳代以上では各年代で「ウォーキング」を挙げる率が最も高く、気軽に取り組める運動として根強い人気があります。若い世代にはバドミントンを選択する傾向があり、今後、町として力を入れていくべきひとつの種目となっています。その他として多かったのが、ヨガやピラティス、水泳、自転車、ボッチャ等のニュースポーツという意見がありました。チームスポーツよりひとりでも楽しめるスポーツを選択する傾向がうかがえます。
- ・個人で取り組む運動であっても、意欲を高めたり、新たな仲間を得たり、知識や技術を習得したりする機会を設けることが求められています。
- ・施設の制約などから、町内ではできないスポーツ種目があります。水泳は夏季のみ実施可、スケート等の氷上競技ができる施設は現在ありません。
- ・スポーツ種目の充実のために施設を新設したり大規模改修したりすることは難しいのが現状ですが、既存の施設を利用して様々な種目ができる環境づくりを進めていく必要があります。

#### 【施策の展開】

##### □ 町スポーツ大会の充実

- ・ウォーキングの愛好者をはじめ、誰もが気軽に参加できる催しとして「いいちゃんウォーク」を開催しています。スタート前に短時間のウォーキング講習を行ったり、ポールウォーキングを取り入れたりする等、内容を充実させたイベントに進展させます。
- ・町スポ連の各専門部を中心に、それぞれが所管する町スポーツ大会の内容・方法を再検討し、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、より多くの町民の参加につなげます。

##### □ 大会開催情報の提供

- ・町の広報紙やホームページを利用するほか、大会開催情報の提供方法を工夫し、より多くの住民に周知できるように努めます。

##### □ 新たなスポーツ大会（イベント）の企画

- ・町スポ連の現状を考慮し、既存の競技種目にとらわれることなく、町民の意見や要望を取り入れ、誰もが気軽に参加できる新しい町スポーツ大会の開催を検討します。
- ・誰でも気軽楽しむことができるニュースポーツの普及を図るため、「囲碁ボール大会」をはじめ、各種のニュースポーツに親しむイベントを開催します。
- ・総合型スポーツクラブが主催する各種のスポーツ大会やイベント事業について、会場の確保や使用料の減免について便宜を図ります。

##### □ 手軽なニュースポーツ導入の研究

- ・施設の改修や高額な用具の購入が不要で、誰でも気軽に取り組める新たなスポーツを発掘するために、飯島町スポーツ推進委員会を中心に研究を進めます。
- ・平成 29 年度に生涯学習センター講座として開講が始まった「スラックライン講座」では毎年多くの参加者があり、ニュースポーツコーナーを設ける等、継続して取り組み普及を図ります。

□ 現在ある施設を有効活用するイベントや講座の開催

- ・いいちゃんウォークで設定したコースを日常的なウォーキングコースとして紹介する等、地元の資源を活かした生涯スポーツの普及に取り組みます。

□ アウトドアスポーツの普及

- ・指定管理者と連携して地元の自然を生かし、千人塚公園を拠点とした、カヌー・ヨットなどのアウトドアスポーツだけでなく、ボルダリング、トレイルランニング、サイクリング、マウンテンバイク、スラックライン等のアウトドアスポーツの研究をし、イベントの誘致や普及に取り組みます。

(3) 体育館開放日

【現状・課題】

- ・運動やスポーツを楽しむための場所や機会の提供と、ニュースポーツの普及、体力づくり等を目的として、毎月 1 回、4 地区の体育館（飯島体育館・田切体育館・本郷体育館・B & G 海洋センター体育館）で体育館を無料開放しています。
- ・年間約 300 人の利用者があり、それぞれ希望の種目を楽しむほか、飯島町スポーツ推進委員会がニュースポーツの指導を行っています。

「体育館開放日」利用者数（H30～R4）

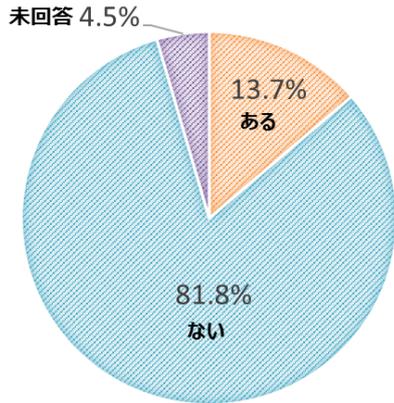
単位：人

| 施設名           | H 30 | R 1 | R 2 | R 3 | R 4        |
|---------------|------|-----|-----|-----|------------|
| 飯島体育館         | 178  | 173 | 102 | 83  | <b>152</b> |
| 田切体育館         | 65   | 69  | 40  | 47  | <b>86</b>  |
| 本郷体育館         | 49   | 131 | 64  | 32  | <b>38</b>  |
| B&G 海洋センター体育館 | 127  | 81  | 130 | 80  | <b>55</b>  |
| 計             | 419  | 454 | 336 | 242 | <b>331</b> |

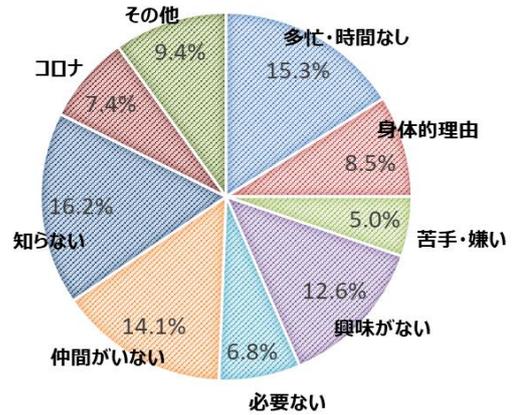
※令和 2 年度から 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開放日を使用中止している月があります。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度から 3 年度は施設自体を使用することができない期間があり、利用者数の大幅な減少となっています。
- ・体育館開放日の利用者が固定化しているところがあり、地区によって利用者数の差があります。
- ・令和 4 年度の調査で、体育館開放日を利用したことがあると回答した人は 13.7%と全体の 1 割を少し超える程度にとどまっています。
- ・体育館開放日の利用の有無について、前回の調査に引き続きおよそ 8 割の人が利用したことがないと回答しました。

### 体育館開放日を利用したことがあるか？



### 体育館開放日を利用しない理由



※令和4年「飯島町生涯スポーツ調査」による（対象1,000人無作為抽出 回答285件）

- ・利用しない理由で「知らない」と回答する人の割合が最も多かったので、周知方法を更に工夫する必要があります。

#### 【施策の展開】

##### □ 「体育館開放日」利用促進

- ・「体育館開放日」について、町広報誌・ケーブルテレビ・SNS等を活用し、認知度を高めるとともに、利用を促します。
- ・「体育館開放日」について、認知度を高め、利用促進を図るため、各地区公民館や自治会と連携していきます。
- ・誰もが気軽に参加できるニュースポーツイベントや体力測定会を開催する等、運営方法を研究し事業計画を作成します。

### 基本目標3 住民が主体的に参画する環境の整備

#### ◎目指す5年後の姿

飯島町総合型スポーツクラブが主体となり、飯島町スポーツ連絡協議会加入団体や公民館等と連携して町全体のスポーツ推進を担うとともに、町民によるスポーツ施設の気軽な利用が広がっていることを目標とします。

#### (1) 総合型スポーツクラブ

##### 【現状・課題】

- ・平成24年度、スポーツ連絡協議会の加入団体である飯島FCを母体として「飯島町総合型スポーツクラブ」が設立され、町内保育園等でのサッカーを軸にした運動教室等の取り組みが行われています。
- ・総合型スポーツクラブという位置づけですが、種目はサッカーのみに限定され、町全体のスポーツ推進を担うところまでなかなか進まないのが現状です。
- ・活動内容の充実、町内スポーツを取りまとめる総合型スポーツクラブとして体制づくりや、指導者の確保・育成、会員を増やしていくことが課題です。

## 【施策の展開】

### □ 総合型スポーツクラブの定着

- ・飯島町総合型スポーツクラブは、青少年の健全育成、指導者の養成、スポーツの普及による健康維持や体力増進（健康寿命の延伸）、地域コミュニティの構築への寄与、青年から高齢者までが健康に暮らせる体づくりの場所や機会の提供、現代社会に不足している規範意識の醸成などを目的として活動します。
- ・総合型スポーツクラブとして町全体のスポーツ推進を担う組織としての体制づくりを進めます。
- ・定期的に開催するサッカー教室を通じて、幼児から青年までの一貫した育成事業を展開します。
- ・スポーツ大会の開催を通じて町内外の人々との交流を図るとともに、スポーツ活動への意欲を高め、スポーツを始めるきっかけづくりを行います。
- ・スポーツに限らず、文化的な活動にも積極的に取り組みます。
- ・国や県の研修会や総合型スポーツクラブ連絡協議会などに参加し、他市町村組織との協力体制を築くとともに、情報収集に努め、自主的な運営能力の向上を図ります。
- ・長期的に持続可能な経営ができるよう、将来の財源確保、組織体制について検討を進めます。

### □ 他団体・組織との連携によるスポーツ推進

- ・町内の各スポーツ団体やスポーツ推進委員と協力・連携してスポーツ人口の増加を目指し、町全体のスポーツ推進につなげます。

### □ 「信州やまなみ国スポ」に向けての体制づくり

- ・総合型スポーツクラブを軸にした国スポ・全障スポを受け入れる体制を整えながら、選手の発掘や育成もしていく組織・体制づくりを進めていきます。
- ・活動の周知に努め、総合型スポーツクラブが中心となり町内関係団体を取りまとめ、競技種目の普及や人口増加を図ります。

## (2) 愛好者団体

### 【現状・課題】

- ・飯島町では、多くの愛好者団体・グループが定期的にスポーツに取り組んでいます。愛好者団体の内、町の社会体育施設（運動場・体育館等）を利用するほとんどの団体が飯島町スポーツ連絡協議会に団体登録しています。一般団体は10種目27団体、少年スポーツ団体には13種目21団体が参加しています（令和4年12月現在）。登録団体は、スポーツ連絡協議会の事業に参画することで町のスポーツ推進に寄与し、体育施設使用料の減免を受けています。
- ・新たに団体スポーツを始めようとする場合、既存の団体に加わるか、新たに団体を作るかいずれかの方法がありますが、どちらの場合も支障なく受け入れられる環境づくりに引き続き努めます。
- ・団体構成メンバーの高齢化や勤務形態の変化により、人が集まらなくなっており、活動を休止している団体や解散する団体もでてきています。

### 【施策の展開】

#### □ スポーツ団体の活動支援

- ・愛好者団体やスポーツ連絡協議会各競技部の自主的な活動を支援します。
- ・スポーツ連絡協議会への新たな団体の登録は、その要望に懇切に対応し、必要により既存の団体との調整を図ります。

#### □ スポーツ団体の交流促進

- ・スポーツ連絡協議会の各競技部の連携や、愛好者団体同士の交流促進を図ります。

## (3) 公民館

### 【現状・課題】

- ・町内4地区に置かれている公民館では、区民運動会のほか、体育部を中心にソフトボール大会、バドミントン大会、ソフトバレーボール大会等が実施されてきましたが、参加者の減少、主催側の人員不足、行事の簡素化等により、実施される事業は減ってきています。特定の種目での開催から、様々なレクリエーションスポーツのブースを設置し、参加者のニーズに応える開催の方法が取り入れられています。
- ・最近では、公民館活動でのニュースポーツの取り入れ、生涯学習講座の利用が増えてきており、ニュースポーツを楽しんでもらう機会が多くなってきています。
- ・スポーツイベントを企画しても参加者が集まらず、各自治会から半ば強制的に割り当てられ参加することになり、企画側も参加者側もやりたがらない実状があります。
- ・イベントの開催方法について、従来のやり方から大きく転換する必要に迫られています。

### 【施策の展開】

#### □ 公民館の活動支援

- ・各公民館の自主的な活動を支援します。
- ・公民館事業でニュースポーツの指導が必要な場合には、地区出身のスポーツ推進委員が協力します。

## (4) 一般町民・団体

### 【現状・課題】

- ・特定のスポーツを定期的に楽しむことはなくても、仲間とともにレクリエーションスポーツ活動をしたり、職場などの福利厚生や親睦を目的にスポーツをしたりする機会があります。友人、知人、学校の仲間や親せき等が集まる際にもスポーツに親しむことができるよう、町の体育施設や備品の情報公開が望まれます。
- ・新型コロナウイルス感染症のまん延により以前にも増して大人数で集まるのが難しくなっており、ウォーキング、ジョギング、サイクリング、健康体操等、思い立てば気軽に個人でできる運動を生活に取り入れている町民が増えてきています。
- ・障がい者が自主的かつ積極的にスポーツや運動を行うことができる環境整備が求められています。障がい者スポーツを指導できる指導者の育成が必要となってきています。

### 【施策の展開】

□ 施設の利用方法の周知

- ・ 町民の気軽な利用に供するため、体育施設の利用方法をあらためて周知し、利用者の拡大を図ります。

□ 障がい者スポーツの支援

- ・ 障がい者の自主的なスポーツ活動の継続・定着のため、障がい者スポーツ指導者や競技愛好団体などと連携して支援します。

(5) 施設整備

【現状・課題】

- ・ 教育委員会が所管する体育施設は次表のとおりです。町内4つの区すべてに屋外運動場と体育館があり、加えて小中学校の運動場と体育館も学校行事で使用しない時間は一般にも開放されています。

《飯島町教育委員会所管の体育施設》

| 区分          | 施設名   |
|-------------|---|
| 屋外運動場       | 飯島運動場 田切野球場 本郷運動場 柏木運動場<br>飯島小学校 七久保小学校 飯島中学校 |
| 体育館         | 飯島体育館 田切体育館 本郷体育館<br>飯島小学校 七久保小学校 飯島中学校       |
| B & G海洋センター | 体育館 プール 艇庫                                    |
| 弓道場         | 弓道場   |
| ゲートボール場     | 本郷ゲートボール場                                     |

- ・ 令和3年度に飯島体育館を改修し、アリーナ床の張替え、暗幕の電動化、水回りの自動水洗化等を行い、使いやすい体育館になりました。
- ・ 令和4年度には、田切体育館の屋根・外壁改修、田切運動場の防球ネットを新設しました。
- ・ 令和10年度に予定されている「信州やまなみ国スポ」に向け、会場となる予定の柏木運動場の総合的な整備を計画的に行っていきます。
- ・ 本格的な競技スポーツの大会を招致することは困難ですが、多くの運動場や体育館があることは町民の生涯スポーツ推進に極めて有効と考えられます。
- ・ 体育館等には管理人が常駐せず、鍵の開閉から照明の点灯消灯、使用後の清掃などを使用者の自主管理に任せています。まれに鍵の返却忘れや照明の消灯忘れ、清掃の不徹底が見られます。
- ・ 町内の各体育施設は建設後25年以上が経過しており、計画的な修繕が課題となっています。
- ・ 令和2年度より新しく公共施設予約システムを導入し、インターネットからの施設予約が可能となっています。
- ・ 公共施設予約システムは申請があれば団体、個人のどちらでも利用が可能となっており、利用者による施設使用予約を積極的に行ってもらっています。

町教育委員会以外が管理している体育施設は次表のとおりです。

《飯島町教育委員会以外が管理する体育施設》

| 区 分         | 管 理 者        |
|-------------|--------------|
| マレットゴルフ場    | 区など          |
| ゲートボール場     | 自治会など        |
| 与田切公園テニスコート | 指定管理者        |
| 与田切公園プール    | 指定管理者        |
| お宿陣屋体育館     | お宿陣屋         |
| 健康スタジオやまなみ  | 生協総合センターいいじま |

【施策の展開】

- 町民が気軽に利用できる環境の整備・運用
  - ・ 体育施設の使用については、丁寧な説明によって使用者の自覚を促しながら、引き続き自主管理に任せる方針とします。定期的に備え付けの必要な備品や消耗品の確認を
- 計画的な施設改修
  - ・ 将来を見通して中長期的な計画を立て、施設の改修を実施していきます。
  - ・ 本格的な競技を安全に行うための施設改修だけでなく、幼児から高齢者まで幅広い世代が、様々な用途で利用するための改修も検討します。
- 町スポ連登録団体や外部機関との連携
  - ・ 町スポ連登録団体や教育委員会以外が管理する外部の各機関・施設と連携し、利用者が種目に応じて適当な施設が使用できるよう便宜を計ります。

**基本目標 4 競技力の向上**

◎目指す5年後の姿  
全国の舞台で活躍したり、県内で中幕されたりする飯島町出身の選手やチームが増加していることを目標とします。

(1) 選手強化・指導者育成

【現状・課題】

- ・ 町スポ連では、各競技部の指導員に活動補助費を支出し、活動を支援しています。
- ・ 日ごろからトップレベルの競技スポーツに取り組んでいる町民もいますが、生涯スポーツとして楽しんでいる町民が多い傾向にあります。日常的に指導者から指導を受けるよりも、個人で、またチームメイト同士で研鑽に励んでいます。
- ・ 平成30年度～令和4年度の町民の全国大会出場は下表のとおりです。予選を勝ち抜いて大きな舞台へ出場することはもちろん、郡や県の大会での飯島町出身選手の活躍も明るい話題となり、地域に活力を与えます。

一般選手の全国大会等への出場状況（平成 30～令和 4 年度）

| 年度  | 大会名（種目等）                         | 出場者数 |
|-----|----------------------------------|------|
| H30 | 全日本学生ソフトテニス選手権大会                 | 1名   |
|     | 全日本レディースソフトテニス決勝大会               |      |
| R1  | 全日本学生選手権大会（ソフトテニス）               | 2名   |
|     | オールジャパン・フィットネス選手権大会              | 1名   |
| R4  | 囲碁ボール兵庫県大会                       | 6名   |
|     | 日本スポーツマスターズ 2022（軟式野球）           | 4名   |
|     | 全国健康福祉大会祭「ねんりんピックかながわ 2022」（太極拳） | 1名   |
|     | 全日本 O-40 サッカー大会                  | 4名   |

【施策の展開】

- トップレベルの選手の発掘・育成
  - ・トップレベルの選手の発掘・育成のため、競技種目ごとに総合型スポーツクラブや町スポ連競技部の指導者が選手の指導に努めます。
  - ・郡や県等の組織との連携を強化し、選手の競技力向上につなげます。
- 町スポ連指導員の体制拡充
  - ・町スポ連競技部の指導員には引き続き活動補助費を支給します。
  - ・トップレベルの選手には町スポ連の指導員に登録してもらい、地域の指導者としても活躍していただけるよう要請します。
- 指導者の育成
  - ・指導者や指導者を目指す方に、研修会や資格取得等に関する情報を提供し、指導者体制の強化を図ります。
  - ・指導者間で情報交換できる機会を設けます。
- 全国大会等出場者への激励事業
  - ・全国大会に出場する選手やチームに対して町で激励会を催します。
  - ・町広報誌への掲載をはじめ、メディアによる取材を呼びかけます。

(2) 少年スポーツ

【現状・課題】

- ・少年スポーツ団体活動は、保護者をはじめ地域の指導者が積極的に関わっており、競技力の向上だけでなく、子どもたちの健全育成に寄与しています。
- ・町スポ連に登録した少年スポーツ団体の体育施設使用については、使用料、照明料ともに 100%減免となっており、活動しやすい環境づくりに努めています。
- ・少子化や子どもの運動離れがあり、少年スポーツ団体への加入者が減り、それぞれの活動が困難になりつつあり、活動休止に追い込まれてしまうことが懸念されています。
- ・高校生以下で平成 30 年度から令和 4 年度までに全国大会等へ出場したり、全国レベルの育成選手に選抜されたりした状況は下表のとおりです。

高校生以下の全国大会等への出場状況（平成 30～令和 4 年度）

| 年度  | 大会名（種目等）                                  | 出場者数 |
|-----|---|------|
| H30 | ハイスクールジャパンカップソフトテニス 2018                  | 1名   |
|     | 全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス・弓道）                   | 6名   |
|     | 小学生・中学生全国空手道選手権大会                         | 1名   |
|     | 全日本ソフトテニス選手権大会                            | 1名   |
|     | 国民体育大会（ソフトテニス）                            | 2名   |
|     | 全日本小学生ソフトテニス大会                            | 2名   |
|     | 都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会                      | 1名   |
| R1  | 全国空手道選手権大会                                | 1名   |
|     | 全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス）                      | 1名   |
|     | 湘南藤沢カップ全国中学生ビーチバレー大会                      | 5名   |
|     | 競技者育成プログラム Step3（ソフトテニス）                  | 1名   |
|     | 科学の甲子園ジュニア全国大会                            | 1名   |
|     | 都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会                      | 1名   |
|     | 全国小学生ソフトテニス大会                             | 2名   |
| R2  | 全国高等学校選抜大会（ソフトボール）                        | 2名   |
| R3  | ハイスクールジャパンカップソフトテニス 2021                  | 1名   |
|     | 全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス・ソフトボール）               | 4名   |
|     | 全日本ジュニアテニス選手権'21（硬式テニス）                   | 1名   |
|     | 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会              | 1名   |
|     | 全国小学生ソフトテニス大会                             | 2名   |
|     | 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会              | 1名   |
| R4  | JOC ジュニアオリンピックカップ 2022 全国都道府県対抗中学バレーボール大会 | 1名   |

【施策の展開】

□ 少年スポーツ団体への支援

- ・少年スポーツ団体連絡協議会（以下、少スポ団体協議会）内で相互の交流や情報交換を進めるとともに、課題を共有し、少年スポーツ団体活動の将来を考え、持続可能な活動体制を検討していきます。
- ・子どもの減少が見込まれ、数年先までを見据えた団体運営が必要です。単独での活動だけでなく、飯島プラス1クラブの活動と連携し、持続可能な活動体制を目指します。活動が困難になる団体については、少年スポーツの枠だけでなく一般団体と一緒に活動することも視野に入れ、町スポ連が調整等に協力します。
- ・少年スポーツ団体の体育施設利用については引き続き使用料、照明料を減免とします。

□ トップレベル選手との交流イベント

- ・子どもたちに夢を与え、将来の目標を持てるよう、トップレベルの選手や指導者を招き戦術や技術を学んだり経験したりする機会を設けます。

□ 競技力向上と健全育成の両立

- ・指導者や保護者には競技力向上とともに、スポーツによる子どもたちの健全育成についても引き続き理解を求めています。

□ 小中学生への指導体制

- ・高校生になると活動の場は主に町外の高校に移ります。小中学校時代からの積み重ねが開花することも念頭に置き、町内では小中学生への指導体制の充実を図ります。

□ 全国大会等出場者への激励事業

- ・全国大会に出場する選手・チームに対して町で激励会を催します。
- ・町内広報誌への掲載をはじめ、メディアによる取材を呼びかけます。

## 基本目標5 地域の元気力アップ

◎目指す5年後の姿

スポーツイベントに大勢の町民が関わるとともに、スポーツを通じた様々な交流や健康増進の取り組みが進み、「元気な飯島町」が実感できることを目標とします。

(1) 地域の一体感や活力の醸成

【現状・課題】

- ・スポーツを通じた地域の一体感や活力の醸成が望まれています。
- ・スポーツの明るい話題は当事者だけでなく周りに元気を与える力をもっています。町広報紙では、ほぼ毎月、町内の大会の結果や全国大会出場選手の紹介などを記事にしています。
- ・かつては「飯島町歩け走ろう大会」に人口の約1割に当たる1,000人を越える町民が参加していました。この催しを引き継いだ「いいちゃんウォーク」の参加者数は減少傾向にありましたが、個人で気軽に取り組めるスポーツとしてウォーキングがブームとなり、イベント参加者も少しずつ増加しています。

平成30年度から以下のような推移となっています。

| H30  | R1  | R2 | R3   | R4   |
|------|-----|----|------|------|
| 319名 | 35名 | 中止 | 108名 | 134名 |

※申込数ベース

※平成30年は伊南バイパス開通イベント、令和元年は台風により中止、令和2年度はコロナにより中止となりました。

- ・平成28年（2016年）のリオ五輪に引き続き、令和3年（2021）の東京五輪では、飯島町に縁のある女子バドミントンの奥原希望選手のパブリックビューイングを開催し、会場で盛り上がりを見せました。

## 【施策の展開】

### □ スポーツ以外の催しとの連携

- ・一人でも多くの町民がスポーツイベントに楽しく参加できるよう、スポーツ以外の催しとの効果的な連携を進めます。

### □ スポーツ推進委員の活用

- ・スポーツ推進委員の認知度を高めるとともに、町イベントや各地区公民館事業、出前講座等で積極的に町民との関わりを深め、町のスポーツ振興状況を把握し、ニーズに応じたスポーツの普及に努めます。

### □ スポーツの話題発信

- ・地元チームや選手の活躍は地域に元気をもたらし、一体感や活力の醸成につながることから、そうしたスポーツの話題を積極的に発信します。町広報紙への掲載にとどまらず、メディアへの情報提供、ケーブルテレビ行政チャンネルやインターネットの活用を図ります。

### □ 「する」「観る」「支える」スポーツへの関わりを強化

- ・「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の情報を提供するとともに、家庭を飛び出して町単位での地元チームや選手の応援観戦などを呼びかけます。
- ・「信州やまなみ国スポ」に向け、参加選手を育成することはもちろん、飯島町で開催される競技運営等への参加を呼びかけ、町民全体で大会を支え成功させる機運を醸成していきます。そのための組織体制を整備していきます。

## (2) 地域間交流の促進

### 【現状・課題】

- ・上伊那小学生バレーボール連盟が主催する「花の道杯小学生バレーボール交流大会」は、かつては県内外から70以上のチームが参集して町内で開催され、参加者数は保護者などを含めると1,000人を超えていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の広まりにより、一時、規模は大きく縮小されました。現在では新型コロナウイルス感染症の様子をみながら、開催方法を工夫し、少しずつ参加チーム数を増やしています。
- ・上伊那ママさんバレーボール連盟が主催する「いいじまスプリングリーグ」は、飯島町のPRを目的に飯島町商工会や町内企業の協力で、飯島町の特産物の販売を行い観光振興や経済の活性化を図っています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催ができない状況が続いています。
- ・少年スポーツ団体では、練習試合等で他市町村のチームとの交流があります。チームの強化が目的ですが、チームやチームを取り巻く人たちとの交流が新たな活性化につながることも期待されます。
- ・長年続いていた友好都市の奈良県斑鳩町とのスポーツ交流ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年は実施できていません。
- ・夏季を中心に、毎年多くのスポーツ合宿が町内で行われています。
- ・平成25年より町民主体による「米俵マラソン大会」が開催され、現在では全国から多くの参加者を集める人気のマラソン大会となっています。

- ・令和2年に国定公園に指定された中央アルプス国定公園内にある千人塚公園では、平成30年から指定管理となり、城ヶ池を利用したヨットやカヌー等の体験だけでなく、周辺の自然を存分に利用したアウトドアアクティビティが用意され、町内外から多くの方が訪れています。また、宿泊施設としてキャンプ場、コテージ、グランピング施設等が整備され、今後の利用者拡大が期待されています。

#### 【施策の展開】

##### □ 広域大会への協力

- ・町内で開催される広域大会については、主催する団体に便宜を図るとともに、観光パンフレットの配布などによって観光振興や経済の活性化にも役立つよう努めます。

##### □ 友好都市との交流補助金制度の周知

- ・遠征費等は各団体での負担を願いますが、友好都市等との交流については「飯島町協働のまちづくり推進事業補助金」の制度を活用するなど、参加者の負担を軽減する方法を探ります。

##### □ スポーツ合宿への協力

- ・スポーツ合宿による体育施設の利用について、町内、近隣の宿泊施設と連絡・調整をしながら、多くの合宿利用が呼び込めるように引き続き協力していきます。

##### □ 全国から集客できるスポーツイベントの支援

- ・飯島町の特色・魅力を前面に出しながら、全国から集客している米俵マラソンや、各種イベントへの支援を行います。
- ・「信州やまなみ国スポ」を見据えて、関係競技団体と連携し、競技の体験会の企画やトップレベルの大会等を招致し、他地域との交流を広げつつ、町内の国スポに向けた機運の醸成を図っていきます。

### (3) 健康長寿社会の実現

#### 【現状・課題】

- ・健康寿命延伸や生活習慣病予防のための運動は、青壮年期から取り組む必要が指摘されていますが、若者の運動ばなれが進んでいます。
- ・高齢期の身体活動の低下、スポーツへの関わり低下が懸念されています。
- ・健康福祉課では、健康体操などの教室を定期的には開いています。

#### 【施策の展開】

##### □ 青壮年期からの運動促進

- ・青壮年期は働き盛りで体を動かす機会が減少しがちです。こうした世代が日常的に運動に取り組む意識を持つよう周知を図り、健康寿命延伸や生活習慣病予防につなげます。
- ・夜間や休日開催、託児を設ける等、参加しやすい教室を検討し実施します。

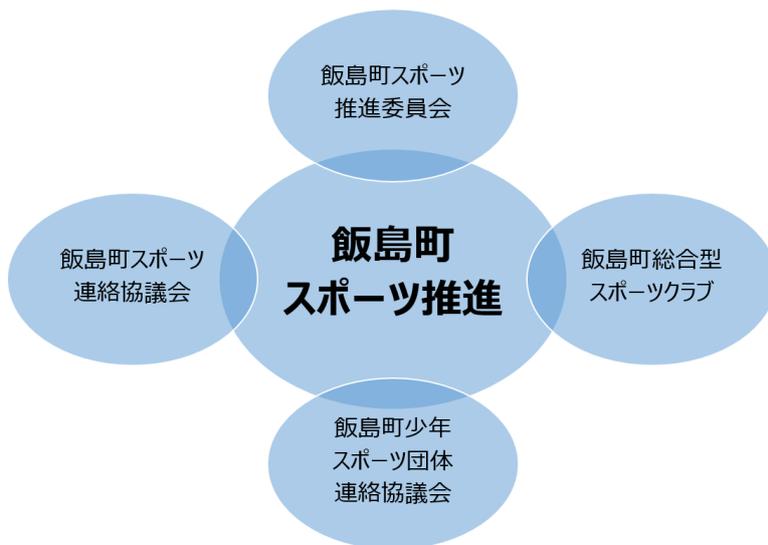
##### □ 高齢者の運動促進

- ・身体機能の維持・向上や介護予防を目的とする健康福祉課等の体操教室に協力するほか、生涯学習センター講座とも連携しながら、生きがいつくりの観点からも、高齢者が無理なく身体活動に取り組める機会を拡充します。

## 第4章 施策の推進体制

本計画の推進には、町民・スポーツ団体などがそれぞれの役割を認識し、お互いを尊重しながら協働して施策を展開することが重要です。特に、スポーツに関わる飯島町スポーツ推進委員会、飯島町スポーツ連絡協議会、飯島町少年スポーツ団体連絡協議会、飯島町総合型スポーツクラブは、互いに理解し合って柔軟な対応がとれるよう、情報交換を図り連携を強化することが求められます。

また、施策の進行状況や成果の検証を行い、公表して情報を共有する必要があります。



### 1 施策の推進体制と役割

#### (1) 町民の理解と協力

町民一人一人には、その自発性の下に、年齢や性別、障がいの有無を問わず、それぞれの関心や適性に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ役割が期待されています。町は、そのための環境づくりを関係団体と連携して推進します。

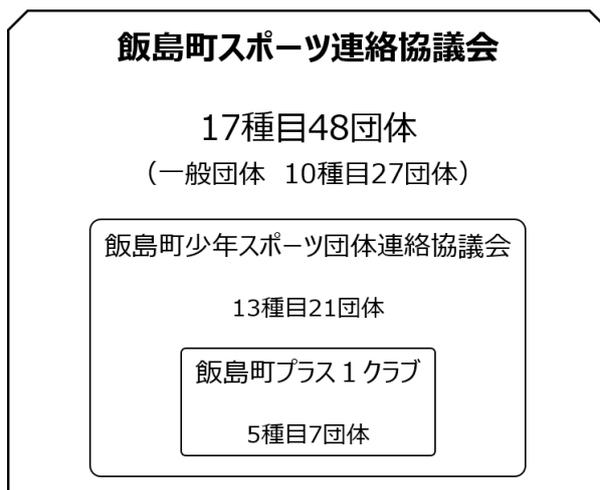
そうした活動の成果として、健康長寿で、人と人が深い絆でつながり、活力に満ちたまちづくりの素地を生むことにつなげます。

#### (2) 飯島町スポーツ推進委員会

飯島町スポーツ推進委員会は、スポーツ基本法に基づいて飯島町教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員9名で組織されています。月1回の体育館開放日、公民館や地区の行事におけるスポーツ指導、ニュースポーツの普及など、町のスポーツ活動全般のコーディネーター役が期待されています。また、部活動の地域移行においては、町の人材を発掘、紹介してもらい、将来にわたって子どもたちがスポーツに親しめる体制の構築に力を発揮してもらいます。

#### (3) 飯島町スポーツ連絡協議会・飯島町少年スポーツ団体連絡協議会

飯島町スポーツ連絡協議会は、町内のスポーツ団体や指導者の資質向上、連携強化を図り、町のスポーツ振興に寄与することを目的としている協議会です。17種目48団体と、13競技部108名のスポーツ指導者で構成されています（令和4年12月現在）。そのうち、飯島町少年スポーツ団体連絡協議会は、幼児から中学生を対象とした13種目21団体で構成されている協議会です。令和3年度から学校部活動の地域移行研究推進にともない、飯島プラス1クラブ（5種目7団体）が新たに設置されました。



これらの協議会に加入している団体と指導者が、町の生涯スポーツ活動推進の中核を担っています。しかし、児童、生徒数の減少、団体を構成するメンバーの高齢化等、団体への加入者数が増えず、活動そのものの継続が難しい状況もあります。それぞれの団体での活動方法の検討、各団体間での連携・協力等、工夫をしながら自立して活動に取り組むことが期待されます。協議会は、競技力向上や競技者数の増加を図りながら、団体間の交流を進めるとともに、各競技部の飯島町大会の主催、広域スポーツ大会への参加、スポーツ研修会の開催、指導者の育成などの役割が期待されます。

#### (4) 飯島町総合型スポーツクラブ

飯島町総合型スポーツクラブは、平成25年1月、スポーツ連絡協議会の加入団体である飯島FCを母体として設立されました。幼児から青年まで一貫した選手育成、各種スポーツ大会の開催、スポーツへの関心の高まりやスポーツ人口の増加など、町全体のスポーツ活動の活性化、スポーツ振興への取り組みを進めていきます。

また、今後5年間は2028年に開催予定の国民スポーツ大会長野県大会（信州やまなみ国スポ・全障スポ）に向けて、国スポ出場選手の発掘・育成等への役割も期待されます。町内ではホッケー競技が開催され、運動場の改修・整備も進めていきます。その他の競技でも飯島町出身の国スポ選手が活躍できるように、競技の普及、体験会や大会の開催等、各競技団体と連携・協力しながら様々な場面での中心となって進めていくことが期待されます。

#### (5) 保育園・小学校・中学校との連携

飯島町には保育園が3園、小学校が2校、中学校が1校あります。多くの時間をこれらの場所で過ごす子どもたちが、体を動かすことの心地よさを覚え、スポーツのすばらしさを体得できる指導が求められています。最新のスポーツ指導の考え方やスポーツ医学に基づく指導も期待されています。子どもの数が増えない現在の状況を把握し、それぞれの年齢に応じた今までとは違うアプローチ方法でスポーツ指導・体験や、様々な種目を体験できる機会等を作り、生涯にわたってスポーツが好きになる子どもを育てる環境を整えていくことが期待されます。

また、子どものスポーツ活動を保証する場として部活動の地域移行が進められています。教育委員会との連携はもちろん、幼少期からの地域の指導者との関わりや、各種目の指導についての円滑な連携も望まれます。

#### (6) 公民館との連携

飯島公民館・田切公民館・本郷公民館・七久保公民館は、それぞれに体育部をおき、その企画のもとに各種のスポーツ事業を展開しています。文化事業とともに今後も充実したスポーツ事業が開催され、地区の活性化が図られることが期待されます。

#### (7) 町関係部署との連携

高齢者・障がい者を含めた保健福祉の分野、観光振興やまちづくりの部署など、関係部署との連携を密にし、スポーツ推進に取り組みます。

## 2 施策の推進体制と役割

計画を実効性のあるものとするため、施策の進行状況や達成度合いを点検、評価し、必要により事業の実施方法を見直して改善を図ることが必要です。達成度合いは飯島町スポーツ推進委員会で随時検証し、町民やスポーツ団体の視座に立った計画の推進となるよう、スポーツ連絡協議会の総会などでも評価を公表することとします。

## 飯島町スポーツ推進計画策定経過

### 1 飯島町スポーツ推進計画策定委員会の概要

#### (1) 掌握事務

計画策定に関する調査及び研究

#### (2) 委員

15名以内で組織し、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱又は任命する。

- ① 飯島町スポーツ推進委員
- ② スポーツ団体関係者
- ③ その他教育委員会が必要と認める者

### 2 飯島町スポーツ推進計画策定委員会の検討経過

#### (1) 事前準備

- ① 飯島町生涯スポーツ調査
- ② 計画策定方針を決定
- ③ 委員の公募

#### (2) 策定経過

| 回                  | 内容                           | 事務局・関係機関                  |
|--------------------|------------------------------|---------------------------|
| 第1回<br>9月20日       | ○国・県の計画の確認<br>○たたき台の審議       | ○計画策定方針を提示<br>○たたき台の提示・修正 |
| 第2回<br>12月22日      | ○計画素案の審議                     | ○素案の修正・計画案の作成             |
| パブリックコメント<br>1月～2月 | ○パブリックコメントの実施<br>(1/24～2/12) |                           |
| 第3回<br>2月21日       | ○パブリックコメントについて<br>○計画案の最終審議  | ○最終案の作成                   |
| 定例教育委員会<br>2月22日   | ○計画案の審議                      | ○最終案の提出                   |
| 庁議<br>2月27日        | ○計画案の審議・決定                   |                           |
| 3月議会<br>3月中旬       | ○計画の報告                       | ○計画の提出                    |
| 広報・周知<br>3月19日     | ○広報誌での告知<br>○隣組回覧での周知        | ○広報誌掲載<br>○回覧依頼           |

委員名簿（任期 令和4年9月20日から計画策定まで）

|    | 氏名    | 選出母体             |
|----|-------|------------------|
| 1  | 伊藤 敦  | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 2  | 松村 良次 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 3  | 好村 由香 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 4  | 森岡 将雄 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 5  | 小林 正信 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 6  | 安江 美紀 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 7  | 湯澤 正志 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 8  | 齋藤 隼人 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 9  | 宮澤 卓哉 | 飯島町スポーツ推進委員会     |
| 10 | 小林 啓志 | 飯島町スポーツ連絡協議会     |
| 11 | 井口 智世 | 飯島町スポーツ連絡協議会     |
| 12 | 大澤 啓二 | 飯島町スポーツ連絡協議会     |
| 13 | 城田 孝夫 | 飯島町少年スポーツ団体連絡協議会 |
| 14 | 伊藤 淳  | 飯島町総合型スポーツクラブ    |
| 15 | 増田 祐美 | 飯島中学校            |

